

アメリカでの日本語教育



2つの言語環境、2つの文化
環境のなかでの日本語教育

導が行われている。

「英語と日本語、アメリカと日本という2つの言語環境、2つの文化環境を生きたチャンスをもらった生徒たちがその利点を最大限に活かし、日米双方の視点を軸にグローバルな観点から物を見、考えることのできる力を身に付けることが究極的な目標だ」と学園長のモナスティエロ・佐智先生は言う。

生徒数は年々増加し、現在は300名を超えている。学園周辺だけではなく、北はオー克蘭ド方面から、また南はサンノゼ方面から通う生徒も多い。現在、夏期、新学期クラス共に登録受付情報提供 さくら学園

アメリカで日本語と日本文化を学ぶ生徒達を取り巻く環境は多様だ。純粋に外国語として日本語を学ぶ生徒達から、日系アメリカ人として世代を重ねながらいわゆる継承語として日本語を学ぶ生徒達、永住を前提としながらも家庭内のコミュニケーションを必要とする生徒達、更に将来は日本に帰国して「国語」で高等教育を受ける事になる生徒達まで、実に様々だ。そうした中、ダブリ

ンにある日本語学校、さくら学園では、きめ細かなクラス編成、工夫された教材とプログラムにより、このような生徒達の多様なニーズに幅広く対応している。例えば、家庭内で日本語を主要言語とする生徒達に対しては、2歳児から小学6年生までのクラス（今後は中三まで対応予定）を用意し、経験豊かな講師が年齢に応じた最適な方法で生徒の意欲を引き出しながら確かな結果を出す指導を行っている。また、主要言語が日本語ではない生徒達に対しては、3

歳児から高校生、そして成人までのクラスを用意し、日本語の学習と同時に日本文化への造詣を深める為の授業を行っている。更に、週2回のクラス、週1回のクラス、週末のみのクラス、個人指導というように、多様なオプションが用意されているばかりでなく、親子教室やそろばんクラスなどもある。

そして、さくら学園の最大の特長は、何と云っても日本語学習の目標を単なる言語能力の習得のみに留めていない事だろう。例えば、日本語を主要言語とする生徒達には、単なる読み書きだけではなく、幼い時期から「日本語」でじっくり物事を考える習慣を身につける指導が行われており、英日両語の世界で自由に物を考える事のできる真のバイリンガルの養成を目指している。また、主要言語が日本語でない生徒達には、ただ日本語を聞いて話すことだけではなく、授業に盛り込まれた日本の伝統文化や現代の日本社会の学習を通じて、米国内での日本文化の普及を担う真の日本語